

令和4年度 評価計画及び自己評価

(計画) (中間) (最終)

阿賀中学校区 校番 8 学校名 呉市立阿賀小学校

a 学校教育目標	自ら伸びる ともに伸びる	b 経営理念 ミッション・ビジョン	<ミッション>(学校の使命) ・地域との協働のもと 主体的・自律的に生きる子どもを育成する。 <ビジョン>(将来の学校像) ・阿賀学園地域教育連携協議会(アガデミア)の活動を生かして、「活気ある楽しい学校」「保護者・地域から信頼される学校」「やりがいのある学校」を目指す。
----------	-----------------	----------------------	---

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	これまでも小中一貫して、生徒指導の三機能を生かした授業づくり・生活づくりを進め、効果を上げている。今年度は、これまで取り組んできたことを基盤に、個々の実態に応じた「個別最適な学び」の実現に向け、「主体的な学び」を促すことに重点をおいて取り組むことにより、資質・能力の向上を図っていく。具体的には、授業において、とりわけ、昨年度から導入されたタブレットを中心としたICT機器等の効果的活用を図りながら、より主体的に学習に向かう姿勢を育て学力のさらなる向上を図りたい。また、教室、SSR等の生活場面において、児童生徒が個々の目的をもち、安心して過ごせるための手立て、体制、集団づくり等の工夫に取り組みたい。すべての児童生徒の居場所をつくり、不登校等の課題解決を図っていききたい。 めざす子ども像 自分の考えをもつ子ども・最後までやりきる子ども・認め合い励まし合う子ども
------------------------------	--

育成すべき資質・能力	知識・技能 思考力・判断力・表現力 自らへの自信 思いやり・感謝・貢献
------------	-------------------------------------

評価計画(中期経営目標を設定してから 1 (2) 3 年目)					自己評価						
重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	学力の向上	① 基礎基本の学力の定着を図る。	・学力調査等の課題を踏まえ、指導の重点を定める。 ・「ドリルタイム」を年間計画に従って継続して取り組む。 ・漢字・計算の反復練習や課題克服のための学習を実施する。 ・個の課題に応じて、個別指導を行う。 ・授業改善を進める。 ・①めあてを提示し全員で確認する ②自分の考えをしっかりとつ ③みんなの考えを交流する ④ふりかえりの時間を確保する。	・全国学力・学習状況調査において正答率30%未満、無回答率を「0」をめざす。 ・標準学力調査で全国平均より全校平均がプラス5点以上をめざす。(プラス点/5×100) ・国語と算数の単元テストの平均点 ・児童の授業満足度(よくわかる)	95%	98%	103%	A			
**	自尊感情の高揚	① 規範意識を高める。 ② 思いやりの心を育てる。	・生活目標を示し、「返事・あいさつ・くつそろえ」を点検させる。 ・縦割り掃除を無言で行う。 ・クラスチャレンジ、阿賀小オアシス隊、阿賀小さきれいにし隊等の活動の充実を図る。 ・「くん・さん」や「ほかほか言葉」を使う。	・「返事・あいさつ・くつそろえ」の自己評価 ・「自分が好きだ」「自分にはよいところがある」の自己評価	90%	85%	94%	B			
*	基本的な生活習慣の定着と体力の向上	健康な生活を増進させる。 体力の向上を図る。	・栄養教諭と連携した食に関する授業の実施や委員会活動を巻き込んだ運動を展開する。 ・定期的に生活カードで点検し、保護者啓発を促す。 ・体育授業の充実、「阿賀小準備運動」・「あがり運動」を実施する。 ・体力テストに向けてブラッシュアップカードを活用する。	・「早ね・早おき・朝ごはん」の達成率(毎日朝ごはんを食べる。) ・新体力テスト(50m走、ソフトボール投げ、長座体前屈)が県平均を上回る。	97%	94%	97%	B			

業務改善	やりがいのある学校づくり	児童生徒と向き合う時間を確保する。	・会議時間、研修時間等を短縮する。	児童生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合	80%	68%	85%	B			
		長時間勤務を削減する。	・平日18時30分退校、週1日17時退校を徹底する。	時間外勤務が月45時間を超えない教職員の人数	96%	70%	73%	C			

【k: 自己評価 評価】
 A: 100 ≤ (目標達成) B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100
 C: 60 ≤ (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60

令和4年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間 最終)

阿賀中学校区 校番8 呉市立阿賀小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	学力の向上	① 基礎基本の学力の定着を図る	○全国学力・学習状況調査の正答率30%未満、無回答率を「0」については98%、単元テストの平均点は88%、児童の「授業満足度」は、92%で目標値を達成した。 児童の実態把握に努め、めあてからまとめ、発展的な振り返りといった授業を展開したり、基礎学力の定着に向けた反復学習やドリル学習等を実践したりすることで、学力を向上することができた。今後は、思考力・判断力・表現力をより一層伸ばしていく必要がある。	・正答率30%未満の児童や学力に課題がある児童については、授業での個別の支援や放課後の学力補充を引き続き行う。 ・レディネステスト等で、個のつまづきを把握し、授業改善にるなげる。 ・まとめや発展的な振り返りの視点を児童に示した日々の授業を通して、思考力・判断力・表現力の向上を目指していく。
**	自尊感情の高揚	① 規範意識を高める ② 思いやりの心を育てる	○●「くつそろえ」は91%で目標値を達成したが、「返事」は83%、「あいさつ」は81%であった。 ○●「自分にはよいところがある」は81%で目標値を達成したが、「自分が好き」は72%であった。 生活目標やクラスチャレンジ、阿賀小きれいにし隊や各キャンペーンなど、学校全体で取組を進めたことで、規範意識を高めることにつながった。色を塗ったりシールやバッジをもらったりすることで、頑張りを視覚的に捉えられることも効果的だった。一方で、自分や他者のがんばりやよさを認める機会をより多く意図的に仕組み、自尊感情の高揚を図る必要がある。	・生活目標やクラスチャレンジ、阿賀小きれいにし隊や各キャンペーンなど、学校全体での取組を継続し、規範意識を高めていく。 ・自尊感情の高揚のために、全教職員が児童への肯定的評価や前向きな働きかけを意識する。担任等からの肯定的評価、児童相互のよいところ見つけ等を日常におこなったり、「今月の歌」を活用し、自分のよさに目を向けさせたりする指導も行っていく。
*	基本的生活習慣の定着と体力の向上	健康な生活を増進させる 体力の向上を図る	○第1, 2, 3学年学級活動、第5, 6学年家庭科において、学級担任及び担当教諭と栄養教諭が連携した指導を行った。 ●6月実施の学校評価児童アンケートの結果では、毎日朝ごはんを食べている児童は94.3%(肯定的評価)であり目標値に達していない。意識づけとして実施している「あがり生活カード」の6月実施の結果では、毎日朝ごはんを食べている児童は89.7%と昨年度より3.8ポイント低下した。 ○6月実施の食育朝会において、動画による簡単な朝食メニューを紹介し、後日動画配信を行った。 ●新体力テストの結果、県平均を上回った割合は、50m走とソフトボール投げは33.4%、長座体前屈は50%だった。36種目中14種目で38.9%であり目標値に達していない。 ○学校評価児童アンケートで「1日1回外遊びをしている」に肯定的に回答した「児童が、昨年度と比べて0.3ポイント増加している。	・委員会活動の常時活動としての給食時間の放送や栄養教諭と連携した学級活動等において、朝食の指導を行う。 ・第2回のあがり生活カードでは、前回の結果を振り返りながら実施させ、児童の生活習慣向上の意識を高め、保護者啓発を行う。 ・本校の課題種目である50m走、ソフトボール投げ、長座体前屈の向上につながるため、体育の授業で走・投の運動を意識的に取り入れたり、引き続き体力アッププログラムを実施したりする。 ・11月に行う第2回新体力テストに向けて、ピヨンドカードを用いて自分の記録や県平均をもとに、自己目標を設定させる。また、ブラッシュアップカードを用いて、柔軟性や投げる力等につながる運動を紹介し、取組を記録できるようにする。

業務改善	やりがいのある学校づくり	児童生徒と向き合う時間を確保する 長時間勤務を削減する	○研修・暮会等の削減、計画的に放課後の会議等を組むことで、時間意識をもち仕事をすることができた。 ○火・木日程や暮会の頻度、時間の短縮等により、放課後の時間が確保されている。 ○教科担任制の仕組みを取り入れることで、教材研究の負担が軽減されている。 ○連絡事項は、文書等で効率よく行い、時間の確保に努めている。 ●生徒指導や学年業務に追われ、児童と向き合う時間が十分であると言えない。児童にかける時間に個人差がある。 ●4月は達成困難であったが、徐々に月ごとの時間外勤務の時間は減ってきた。	・タブレットの活用、整理整頓、ペーパーレス等、効率的な職場環境の創造を継続して行う。 ・学年打ち合わせ等で年間計画に見通しをもち、効率的な作業配分を行い、個人作業の時間を確保し、勤務時間を削減していく。 ・暮会等で声をかけ合ったり掲示物で啓発したりすることで、効率よい時間の使い方を意識できるようにする。
------	--------------	--------------------------------	--	--

令和4年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

阿賀中学校区 校番8 学校名 呉市立阿賀小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	阿賀小学校児童の実態に即した適切な目標や指標が設定されている。「体力の向上を図る」項目については指標の見直しも必要ではないか。体力の向上については、下半期の達成を期待する。
目標達成のための方策の適切さ	A	「知」・・・基礎基本の学力の定着においては方策の重点化と継続性が図られている。 「徳」・・・規範意識を育てるために、挨拶・返事・靴揃えの徹底が継続されている。 「体」・・・健康な生活の増進については適切であるが、体力の向上については再考も必要。 さまざまな工夫された方策が実践されている。「継続は力なり」と言われるように、目標達成は一朝一夕にできるものではない。今後も、これらの有効な方策を日々実践し、小さな成果を積み上げてほしい。
自己評価の結果の分析の適切さ	B	どの項目についても、適切な自己評価とその分析をされているが、業務改善については、やりがいのある学校づくりに向けて、これからすべての職員の目標達成を願っている。返事・挨拶が前年度より下がったこと、新体力テストの3種目の県平均を上回る割合が低いことが残念である。今後の向上につなげたい。
今後の改善策(案)の適切さ	A	どの項目についても、現時点での目標値達成をもとに今後の改善策を練られている。今後、不透明なことも多いので、その時点での適切な改善策も必要である。子ども達が、自分のよさに気づき、自分を好きになるにはほめることが大切である。一方、マイナス行動には、毅然とした態度で対処することも必要である。安心・安全な学校の基盤となる。
その他		目標達成は、教職員がベクトルを揃えて、一丸となって実践していくことで可能となる。一層の「チーム阿賀小」の結束を期待する。長引くコロナ禍で様々な規制や制約はあるが、子ども達の心身共に健全な成長を切に願っている。そのためにも、適切な「業務改善」を行い、やりがいのある職場環境を保ってほしい。各主任が組織のリーダーとして、担当分野で何ができるか主体的に考え行動されていることが、プレゼンでよく分かりました。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<p>授業や生活における居場所づくりを通して、主体的に学び、ともに伸びようとする子どもの育成を、今後も「チーム阿賀小」で継続して取り組む。</p> <p>まとめや発展的振り返りの視点を子どもに示した日々の授業を通して、思考力・判断力・表現力の向上を目指していく。</p> <p>見守りの方への「おはようございます」「いつもありがとうございます」といった気持ちのよいあいさつができる子どもを目指し、生活目標やクラスチャレンジなどと連動させたり学校通信で「あいさつ名人」を紹介したりする取組を実施していく。</p> <p>本校の課題種目である50メートル走、ソフトボール投げ、長座体前屈の向上につながるため、体育の授業で走・投の運動を意識的に取り入れたり、朝の会で実施している「体力アッププログラム」を正しく行ったりすることを徹底していく。</p> <p>今後も放課後の時間を柔軟に活用したり、適材適所を生かした作業分配を行ったりすることで、効率的な職場環境の創造を行っていく。</p>
--------------------	---